



## 塗装工事における注意事項(強・弱溶剤系塗料共通) 【適応:無機系素地】

### 1. 設計上のご注意

#### 1) 目地取りについて

施工する塗布面の目地取りは、できるだけ短い間隔でご計画ください。  
1スパンの塗布面が極端に大きく、吹き継ぎが必要となりますと、吹き継ぎムラなどを生じ美観をそこねます。さらに経年変化に依る構造収縮クラックが発生した時、塗膜性能上に問題が生じる場合があります。特に平面仕上に近いコートは、ムラなどが目立ちやすいため目地取りが大切です。

#### 2) シーリング材上への塗装について

- (1) シーリング材の上にボンフロン塗装を行なう事は避けてください。  
短期的に密着するものもありますが、長期的に見た場合、ボンフロンの塗膜がシーリング材の伸縮に追従できず、割れが発生します。
- (2) シーリング材の後打ちは避けてください。

#### 3) 足場について

足場の結束は施工する躯体の目地底あるいは開口部などで行なうようにし、塗装面を避けてください。  
塗装面に足場を結束すると足場を取りはずした後、補修が必要となり仕上りの美観を損なうため好ましくありません。

### 2. 施工上のご注意

#### 1) 気象条件

- (1) 5℃以下の低温、又は85%以上の高温では、材料の性能発揮に時間がかかり、塗膜やパテ材の性能が低下しますので、施工を避けてください。
- (2) 降雨、降雪時及びその直前、直後に施工すると、塗膜の流出や造膜不良が発生します。  
施工中に降雨、降雪にあった場合は、直ちに施工を中止し、シート養生して塗装面を保護してください。
- (3) 強風の場合は、塗装ムラ、飛散汚傷が発生しますので、施工を避けてください。
- (4) 気象の変化により、下地や塗布面に結露が生じた場合には、塗膜の接着不良が起こりますので、直ちに施工を中止してください。

#### 2) 調合上のご注意

- (1) 塗料および主材、パテ材は2液反応硬化型なので、配合比に注意して調合し、硬化剤添加後は十分攪拌し、混合ムラのないようにしてください。
- (2) 2液反応硬化型の材料は、可使用時間を厳守し、材料の無駄を少なくするため可使用時間のみあった量を設定して調合してください。
- (3) シンナーは、各材料ごとに専用シンナーを使用してください。また、施工時の気温によって蒸発速度が異なりますので、その都度適切なシンナーと、塗料粘度を検討してください。

#### 3) 労働環境

有機溶剤を使用するので、換気や火気に十分注意を払い、施工者の健康管理に気をつけると同時に、周囲の環境にも十分注意してください。

### 3. 下地の調整

- 下地の調整は、仕上り美観に大きく影響しますので、各下地にみあった下地調整を施してください。  
下地調整の方法は下記の通りです。

#### 1) 付着物の除去

下地表面に付着しているエフロレッセンスによる白粉、レイタンス、ほこりなど、吹付塗装に支障をきたす付着物は、ワイヤーブラシ、サンドペーパー、サンダー掛けなどによって除去してください。

#### 2) 離型材、油脂類の除去

下地に離型材、油脂類などが付着している場合は、ラッカーシンナーでふき取るか、ワイヤーブラシやサンドペーパー、サンダー掛けなどによって除去してください。

### 3) 金属類の除去

コンクリート、PC板などの下地に残留する金属類(鉄筋、セパレーター、番線、ビス釘など)は除去するか、防錆処理を施してください。

### 4) ビス処理

スレート板、パネル板でビス止め施工をする場合は、ビスは板面よりやや下の位置に止め、防錆処理をした後にエポキシ・パテを塗布し、平滑な仕上りとしてください。

### 5) 下地の平滑化

下地に、型枠の不陸、目違い、ジャンカ、ピンホール、欠損などがある場合は、セメント系下地調整材を用いて処理してください。

セメント系下地調整材はJIS A 6916相当品をご使用ください。

## 4. 下地の条件

### 1) 下地の表面含水率とアルカリ度

測定項目	目安値	測定機器	適用箇所
表面含水率	10%以下	Kett高周波水分計測定	コンクリート、セメントモルタルなどに適用
アルカリ度	PH10以下	PH試験紙測定	適合素材すべてに適用

### 2) 下地の乾燥養生期間

期間	下地の種類			
	打ち放しコンクリート PC板	軽量PC	セメントモルタル	スレート板 パネル板
夏季	21日以上	28日以上	14日以上	—
冬季	28日以上	35日以上	21日以上	—

## 5. 溶剤系低汚染「SR」塗料の取扱いの注意事項

- 「SR」塗料は、主剤と硬化剤の2液形塗料であり、その硬化剤に低汚染機能を発揮する親水基(SR機能)の成分が含有しております。主剤と硬化剤の調合は正確に行い、誤差は配合比量±10%以内として下さい。特に、タッチアップ時などには絶対に目分量で計らないで下さい。シンナー希釈も統一することが望ましいと考えられます。主剤と硬化剤の配合比が正確ではなかった場合、「SR」塗料の低汚染機能が十分に発揮されません。
- 主剤と硬化剤は十分に攪拌してから使用し、ポットライフにもご注意下さい。  
電動マゼールによる入念な攪拌を行わなかった場合、「SR」塗料の低汚染機能が十分に発揮されません。
- 硬化剤に含まれるポリイソシアネートは、本来主剤と硬化反応するものです。  
しかし、空気中の水分と反応する事によって本来の硬化反応が阻害され、塗膜性能が十分に発揮出来なくなる可能性もあります。  
水との反応は、塗装現場で硬化剤の小分けを繰り返している間にも徐々に進行します。  
進行の度合いは目視では判り難いので、**残った硬化剤を使用しない**ように注意して下さい。
- シーリング、防水材などによる可塑剤等や油性汚れが付着している場合には、きれいにしてから塗装して下さい。また、足場つなぎのアンカー跡は塗装によるタッチアップはせずに、専用のキャップ等を使用して下さい。
- 他の塗料やシーリング、防水材、これらに由来する可塑剤や油性成分が付着している可能性があるハケやローラーは使用せず、清浄な塗装器具を使用して下さい。
- 上塗の塗り忘れやSR上塗に擦り傷などがついた場合にはその箇所だけ汚れて目立つようになりますので、ご注意下さい。また、塗装・養生時の湿度が高かったり、塗装直後に降雨があった場合にはSRの性能が低下する恐れがあることが考えられます。

## PC工場における塗装の留意点

### 7. 施工環境

- 施工の手順は、塗装仕様書通りでお願い致します。
- 気温5℃以下、湿度85%以上の場合は、施工を中止して下さい。  
また、施工後上記の環境になる場合も施工を中止して下さい。

#### 2.6 施工管理 a.

塗装場所の気温が5℃未満、相対湿度が85%以上、もしくは換気が適切でなく結露する等で塗料の乾燥に不適切な場合は、原則として塗装作業に着手しない。  
やむを得ず塗装を行う場合は、採暖や換気等の養生を行う。

※建築工事標準仕様書・同解説JASS18塗装工事より抜粋

- 降雨、降雪、強風の場合は、施工を直ちに中止して下さい。

#### 2.6 施工管理 b.

外部の塗装では、降雨のおそれがある場合および強風時には 原則として作業を行わない。

※建築工事標準仕様書・同解説JASS18塗装工事より抜粋

- 換気がなく、通気の悪い所では、結露や乾燥の遅延が生じやすいので充分注意して施工して下さい。
- 冬季施工の場合、施工後塗装面が乾燥するまでに低温(氷点下)に曝される場合があります。  
また、早朝では素地(下地)が氷点下になっていて、塗装した塗料が凍結する場合があります。  
塗装作業時間に充分配慮して下さい。

#### 4.6 施工管理 a.(2)

施工する場所の気温が5℃以下のときは作業を中止する。しかし工期の都合でやむを得ないときは、板囲い、帆布シート・ビニールシートなどによる覆いのほか、ヒーターなどで採暖する。

※建築工事標準仕様書・同解説JASS23吹付け工事より抜粋

- 昼・晩の温度差及び、朝露・朝霧による部材の結露は予期しづらく、予防策がない為結露を完全除去後、塗装して下さい。

### 8. 下地の条件

- 塗装前の部材の含水率・PHの条件を厳守して下さい。  
含水率は10%以下・PHは10以下です。
- 下地の乾燥養生期間について、「JASS 18 塗装工事」では、打設後21～28日の材齢管理を推奨しています。  
十分な材齢及び雨養生を行わないと塗膜に不具合が発生する危険が高くなります。
- エフロレッセンス、埃、油脂分、離型材、金属類、錆汁等は、適切な方法で除去して下さい。
- 不陸、目違い、ジャンカ、巣穴、欠損箇所は、下地に適していて、上層材料に悪影響を与えない材料で処理を実施して下さい。
- 塗装前の部材養生は、雨掛かりを避けて下さい。  
特に部材に水溜りが出来ると、部材深層に水分を含み、その水分の蒸発が膨れや剥離の要因になる危険があります。

## 9. 塗装後の養生

- 塗装後の部材養生は、ブルーシート等を使用して雨掛かりを避けて下さい。  
塗装後も塗装をしていない部位から雨水の浸入を避ける為に、なるべく雨水が掛からないようにして頂き、特に部材に水が溜まるような養生の仕方は行わないで下さい。

### 2.5 養生 ⑤

特に乾燥の遅い塗膜や塗装面の重要な部位等の場合は、最終養生期間が経過するまで人手や物品が触れないように養生シートや囲いなどを施す。

※建築工事標準仕様書・同解説JASS18塗装工事より抜粋

- 塗装完了後、指触で塗膜が乾燥したことを確認後、ブルーシート等を使用して雨掛かりを避けて下さい。

### 4.6 施工管理 (3)

寒冷期には夜間凍結するおそれがあるから作業を早めに切り上げ、十分な養生を行う。

※建築工事標準仕様書・同解説JASS23吹付け工事より抜粋

- 塗装後の保管方法は、PC板をできるだけ平置きにして積み重ねないで下さい。  
平置きの場合は、PC板と枕木の上に軽砂を入れて下さい。  
※平置きして積み重ねると、枕木の跡が付き、その箇所の塗膜性能が発揮致しません。

以上